

2014年から継続的に芝学園を取材し、武藤校長先生はじめ、数多くの先生方からご指導いただいた記者が編集しています。主観見解を含みますが、先生方の了承の上、掲載しています。

進学実績は迫力に満ちて、各プログラムの質量に優れます。しかしながら、真価が際立つのは、長きにわたり醸成された教育文化です。ここでは、学園文化を読み解く指針をお話します。

## 男子の保護者に必須レクチャー

# 芝学園文化論 2024



少年たちにとって、保護者にとって  
芝に託すべき理由は「チーム芝」

壮快な男子教育プロ集団



受験生を力づける！  
◆◆芝漬ポスター

手を離して、目を離さず  
男子を育てる基本セオリーです。  
ところで、  
保護者・指導者は「目」の位置は？

芝ディスタンスの妙

指示・号令は、男子を縛り、反抗の火だね  
だから、対話で促す「遵法自治」

【Close Up】学園文化が色濃く映る  
図書委員会の熱気

爽やかな主体性 軽やかな実行力

委員会はクラス代表型ではなく  
自発有志参画型。（定員なし）

cf. 学校図書館は、蔵書約6万冊

メンタルタフネス

学業優等生は、要領がいい？  
いや、芝生は「容量が大きい」と表すべき。

芝生は、やっぱり、都会派スマートでしょうか？ 実は、精神的には、パワフル&エネルギーッシュ。  
“不得手を乗り越える”“辛くても遣り遂げる”経験を積んでいるからでしょう。でも、“歯を食いしばっている”との疲れた印象は希薄です。とにかく、楽しそう。

授業だけでは物足りないと、大学レベルの学術書を抱えていく強者は芝らしい。「図書館学習」、「調べ学習」と力まずに、純粋に趣味教養として書籍と親しむ読書人が集います。これも芝らしい。年間400冊を借りた生徒はパワフル！（1日あたり何冊？）

\*上記は図書館司書教諭W先生のお話しに基づきます。

最高格式私学の氣概

2026年 創立120周年

源流は屈指の名刹増上寺の教育機関  
(江戸時代初期創設)

ともいき  
学園理念 共生

いまあるすべてのいのちの連綿とした繋がりを大切に、その中にある自らを自覚すること

歴史上、根から掘り起こすような大改装がなく、常に日本屈指の名門でありつづけた誇り高き私立学校。およそ120年のとき、守り継ぎ、温めつづけた文化は、濁らず澄んで濃厚濃密。子どもたちの胸中に染みわたるでしょう。

トップ進学校は進学大学ばかりを注視。ただし、「さすが、芝！」と、伝統校の氣概を体感するのはOB社会人です。各界の「中堅」が数多。彼らは「人間的に超一流の青年」です。中高期内に、煌めく先輩諸氏から芝スピリットを注ぎ込まれるでしょう。

学園が育てあげるのは東大生・医大生…ではない。高みを目指す「芝生」です。

芝中学校

<http://www.shiba.ac.jp/>

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-37  
TEL 03-3431-2629  
東京メトロ日比谷線「神谷町」徒歩5分  
都営地下鉄三田線「御成門」徒歩7分

東京港区、丘の学園、少年たちの広場

間近に、東京タワー・芝公園・麻布台ヒルズ・大使館。  
坂道を歩みのぼれば、喧騒離れて、ビル影届かず。  
とぎり時津風浴びて、陽光注ぎ、晴れやかに、伸びやかに。

